研修レポート　グアナファト

志水　慈子

１日目

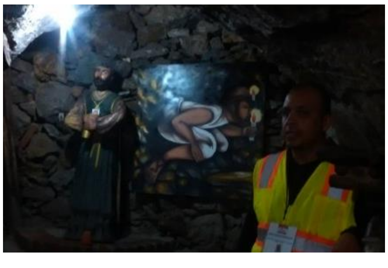
朝６時 10 分発の長距離バスに乗車し、昼過ぎに 380 ㎞離れた革の名産地、グアナファト州レオン市に到着しました。日本総領事館を訪問し日本との繋がりについてお話を伺いました。中央高原地帯に多数の日本企業が進出したことに伴い、邦人数も４年間で 2，5 倍を超え、管轄地域の邦人数はメキシコシティよりも多いとのことでした。

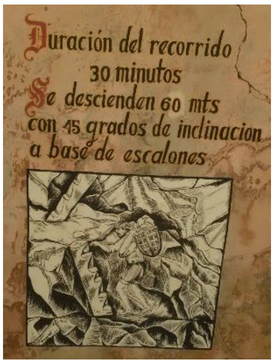
続いてモヒガンガと呼ばれるメキシコ伝統の巨大人形を手作りされている日本人女性とその旦那様の工房を見学させていただきました。モヒガンガとは主にパレードや祭りで使われる人形で、人が担ぐと４、５ｍ近くにまで達します。材料にもこだわり、捨てられてしまうトルティージャを入れる紙袋を何層にも張って色付けし作ります。一体当たり 15 ㎏程度で、お祭り時には担いで躍るそうです。

メキシコ州政府（教育省）ではグアナファト州の教育の状況について伺いました。現職のミゲルマルケス知事が教育に力を入れており、教育水準が大幅に上がったそうです。メキシコでは生活習慣病である肥満患者数が非常に多いということで、教育の場ではどのような取り組みをしているのか等を伺いました。従来肥満予防には運動をするという考えのみが主流でしたが、最近になって食事の重要性が叫ばれてきました。例えば学校の売店では清涼飲料水やスナック、そしてタコスやトルティージャなどビタミン T という造語があるような脂質が多い食べ物が多く売られていましたが、それらを撤去し、家庭から果物や野菜などを間食として持ってくるような指導が進められているそうです。

この日の最後は、エストゥディアンティーナと呼ばれる中世スペインの学生服を着て愛の歌を奏でる楽団と、夜の街を練り歩きました。

２日目





バレンシアーナ銀山・聖堂を見学しました。銀山で鉱夫は穴を開け濡れた木の棒を差し込み、乾燥して膨張する原理を用いてひびをいれて岩盤を崩していましたが、多くの時間と労力に対して割にあわないという欠点があったほか、落盤事故も起きていたそうです。また奴隷として５歳前後の子供も狭い穴に入れ

られ仕事をさせられたり、暗闇で細かい作業をするため失明してしまう方も多かったりしたとのことでした。

午後からは日本語を学習しているというメキシコ人学生と共にマツダ工場を見学しました。工場内では２か国語での標識で両国の従業員が働きやすい場が作られており、品質や安全性の徹底はもちろんのこと、女性従業員が多いことも印象的でした。メキシコでの生産によって、自由貿易政策の充実や為替対応力、勤勉で若い労働力の確保、輸送の利便性などの利点があると分かりました。

夜はアミーゴ会の皆様とお食事をする機会を設けていただきました。広島とメキシコの結びつきや、メキシコでの生産、流通などを日本とは異なる言語、習慣のなかで先陣となって切り開いてこられた方々と大変有意義なお話ができたと思います。

３日目

グアナファト大学の学生の方々と共にグアナファト補習校を訪れました。駐在員のこどもなど様々な理由で日本語の教育を受けたいと思う子供たちが集まり、土曜日だけ小学一年生から中学三年生までが日本語で授業を受けているとのことでした。学校内は日本と変わらぬ様子でこどもたちがいきいきと勉強していました。運営の方にお話を聞き、設立にあたっては場所や経済面、教師をどうするのかなど多くの問題があったと聞きました。個人だけでなく、日本企業などの協力があってようやく完成した旨をきき、皆さんの子供たちに教育の場をという強い熱意を感じました。

いちご加工工場では、周辺地域からいちごを収集しジャムに加工している様子を見せていただきました。グアナファトではいちご生産が有名ということで、バスの中からもビニールハウスがいくつも見えました。工場では毎日１トンのいちごジャムなどの加工品が製造され、国内市場やアメリカに流通していくそうです。

グアナファト大学でのディスカッション、プレゼンテーションでは、メキシコ人学生の積極的な姿勢に驚きました。お互い日本語とスペイン語、

時には英語も用いて自分の意見を伝える必要がありました。今までスペイン語で話す機会がほとんどなかったので緊張しましたが、互いの言語、文化を理解しあえるよい機会になったと思いました。議題としては「グアナファトにマツダなど自動車会社が進出してからどのように変わっていったか」というものがあり、技術の向上や雇用による経済活性化だけでなく、双方の国のステレオタイプのイメージを打ち壊すきっかけにもなったという意見があり興味深かったです。

４日目

午前中は自由時間でしたので、ミイラ博物館を観光しました。エジプトのミイラのように特別な処理をしたわけではなく、グアナファト特有の乾燥した気候と鉱物質の土壌によって、埋葬体をミイラにしてしまうそうです。

中心部では１０月が国際セルバンテス祭ということで多彩な芸術イベントが行われており、メキシコ人だけでなく海外からも多数の観光客も訪れているため、人であふれていました。童話の世界のようにカラフルで美しい町並みはメキシコで最も美しい高原都市ともいわれているそうです。

本研修ではお忙しい時期にも関わらず多くの方々のご厚意で訪問、見学を受け入れていただきました。ありがとうございました。お陰様で大変貴重な経験をすることができました。

そして末筆ながら、この度９月７日、20 日の地震の被災者の方々へ、深く哀悼の意とお見舞い申し上げます。